

なぜ、ワークショップなどの取り組みが始まったのか？

公共施設は・・・

昭和50年代に集中して建設された老朽化した施設が、一斉に更新時期を迎える → 更新費用の不足が見込まれる

今ある施設を、今後も維持していくことは難しい・・・

この課題を解決するために

ワークショップなどの成果を検討に反映させた、「地域別実行計画」づくりが必要です！

人口や税収は・・・

人口減少、少子・超高齢化社会が到来 → 働き世代が減少し、税収増加は厳しい → 持続可能なまちを将来に引き継ぐため、財政健全化が必要

事務事業の見直しによる歳出抑制や、税収を伸ばす取り組みの推進なども行っています

パネル展示型説明会が開催されました！

昨年12月21日、曾野木連絡所 1階 会議室で、検討の状況をまとめたパネルを展示し、職員が来場された方々のご質問にお答えしたり、ご意見を伺ったりしました。

その後、1月9日まで、曾野木地区公民館 1階 ロビーに、パネルと意見箱を設置し、みなさまのご意見を募集しました。

お寄せいただいたご意見（抜粋）

<公共施設の課題・提案・要望>

- ・ 昼間は、地域の高齢者や未就園児の親子、夕方は、小・中・高生が遊んだり、学習したりできるスペースがあると良い。
- ・ 災害時の避難所が身近に必要では。
- ・ 公民館周辺と、団地周辺で、機能を分散すると良いのでは。
- ・ 高齢になると、地域内の移動も大変なので、歩いて行ける範囲に施設があるか、公共交通が充実していると良い。
- ・ 地域の茶の間のような機能も必要では。
- ・ ことぶき保育園や公民館周辺などに、学校が終わると子どもがたくさんいるので、子どもの居場所があると良い。
- ・ 1か所に施設を集約化するのではなく、小さくても分散させた方が良いのでは。
- ・ 同じ江南区でも、亀田や横越には立派な施設ができたが、曾野木にはできず、悲しく感じる。

<市営住宅跡地>

- ・ 多世代が交流できるのは良いことなので、保育園が老朽化しているのであれば、コミュニティ施設と一緒にすると良い。
- ・ 図書を簡単に借りることができ、返却できる仕組みがあると良い。
- ・ 買い物をするのが不便なので、買い物ができる施設も併せてできると良い。

<検討のすすめ方>

- ・ ワークショップ参加者は、年齢層が高く、これから施設を利用するであろう年代の参加者が少ないように感じるので、その年代の意見が反映されるのか不安。



パネル展示の様子

ご意見・お問い合わせはこちらまで

地域別実行計画コミュニケーション事務局
(江南区地域課・新潟市財産活用課)

みなさんのご意見をお寄せください！



江南区親善大使：十全さん（曾野木地区出身）→

郵便 〒950-0195 新潟市江南区泉町3-4-5

電話 025-382-4619

FAX 025-381-7090

メール chiiki.k@city.niigata.lg.jp

新潟市財産経営NEWS 第3号

<発行者>
地域別実行計画コミュニケーション事務局
(江南区地域課：TEL025-382-4619
市財産活用課：TEL025-226-2387)
平成29年1月発行



ワークショップの様子

検討をすすめています。ご意見をお寄せください！

曾野木のまちづくり

～公共施設のこれから～

新潟市では、「財産経営推進計画」に基づき、身近な公共施設については、地域のみなさんと市・区役所が協働で、そのあり方について検討していきます。

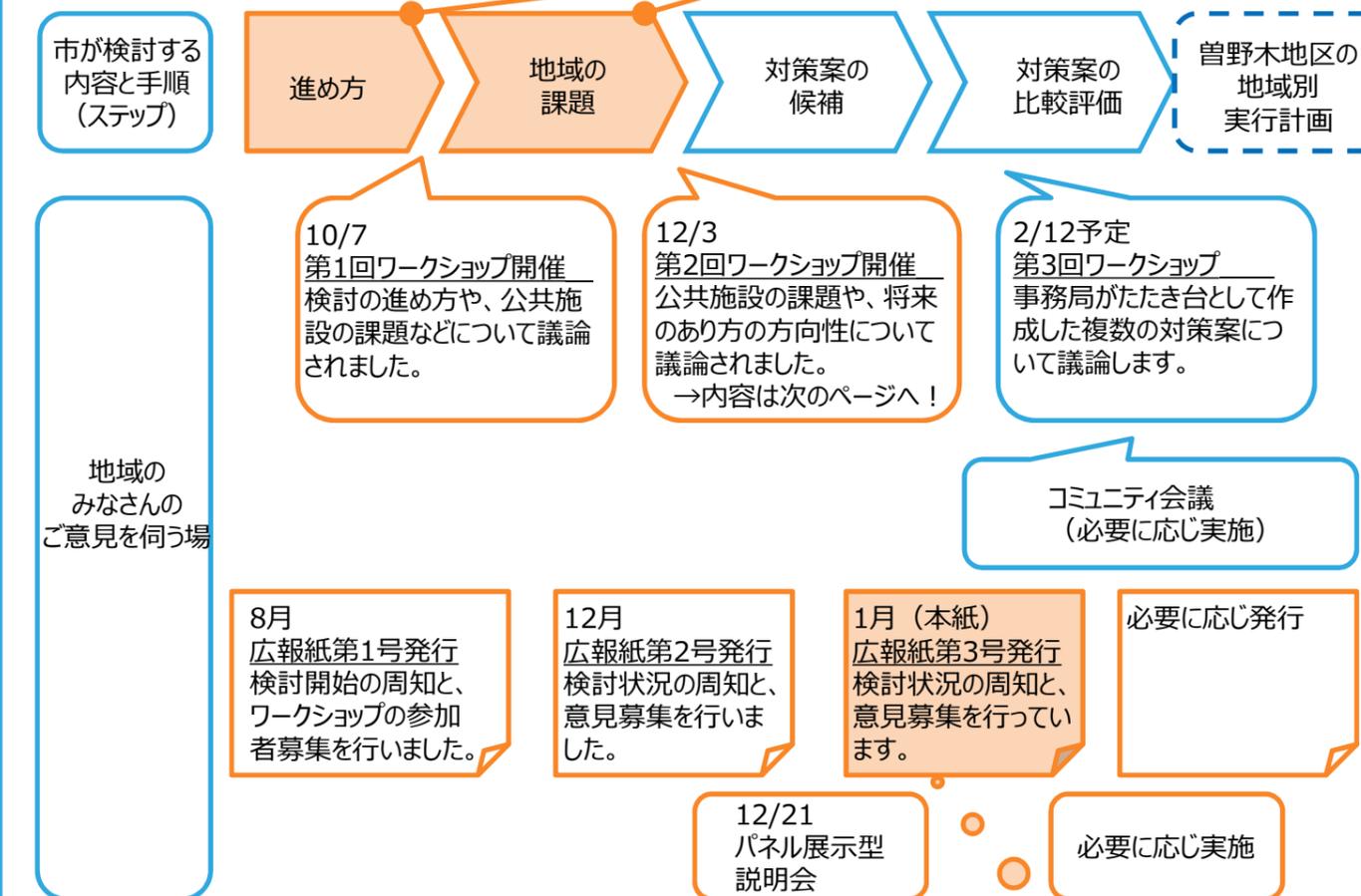
曾野木地域では、市営住宅跡地活用の検討や、曾野木・第二曾野木保育園の老朽化による統合の検討をきっかけとして、地域の公共施設のあり方について、地域のみなさんと市・区役所がともに考えるワークショップが開催されています。

地域のみなさんのご意見をもとに、市で検討を行い、地域の公共施設の将来のあり方を示す「地域別実行計画」が策定されますので、ぜひ紙面をご覧ください、ご意見をお寄せください！

公共施設のあり方について、検討をすすめています

新潟市は、検討のステップ（下図の上段）に合わせ、ワークショップ・広報紙・パネル展示型説明会などの方法で、広く地域のみなさんのご意見を伺い、検討に反映させ、公共施設の将来のあり方を示す「地域別実行計画」の策定に結びつけます。

現在、検討を進めています！



8月 広報紙第1号発行
検討開始の周知と、
ワークショップの参加
者募集を行いました。

12月 広報紙第2号発行
検討状況の周知と、
意見募集を行いました。

1月（本紙） 広報紙第3号発行
検討状況の周知と、
意見募集を行っています。

必要に応じ発行

12/21
パネル展示型
説明会

必要に応じ実施

コミュニティ会議とは？
自治会や保護者団体などに、事務局がお伺いし、
検討の状況をお伝えしたり、ご質問に答えたりします。

ご意見をお寄せください！
連絡先は最後のページへ！

第2回ワークショップでの議論の内容(抜粋)

昨年12月3日に開催された、第2回ワークショップでは、地域内の個々の施設における課題や、課題の解決策について議論がされました。また、施設やサービスを地域全体から見たときの課題や解決策についても議論がされました。

地域づくりの視点

<財政負担を将来に残さない>

- ・ 曾野木地域は広く、公民館周辺と団地周辺との2つに分かれているが、1つの中学校区に同じ施設を2つづつすることが難しいのは理解できる。
- ・ 新規施設整備が難しいなら、既存施設転用も検討しては。
- ・ 子ども、高齢者など各属性のための施設を複数つくるのではなく、多様な世代が共有できる施設をつくれれば、公共施設の再構築につながり、財政負担も減少するだろう。
- ・ 公共施設の運営に行政、地域、民間が協働で取り組みれば、負担軽減につながるのでは。
- ・ 財政状況の厳しさは分かるが、住民としては財政負担のことはあまり考えず、明るい将来を考え、住民の暮らしの利便性を重視して意見交換したい。
- ・ 曾野木地域になかなか目が向けられず、新たな施設をつくるのが難しいというのに納得がいけない気持ちがある。

<公共サービスの充実>

- ・ 子育てしやすい、若い世代が住みやすいまちを目指したい。そうなることが、青少年、子育て層、高齢者などさまざまな世代が生活しやすい地域につながるのでは。
- ・ 高齢者や子どもに加え、障がい者も安心安全で元気に過ごせるまちを目指し、施設整備やバリアフリー化を進めてほしい。
- ・ 施設の再編により、サービスの質や利便性を低下させたくない。



第2回ワークショップの様子

<地域のまとまり・中心性>

- ・ 1つの中学校区ではあるが、広いので、施設をまとめようとすると利便性が低下する地域が出てしまう。公民館周辺と市営住宅跡地周辺の2か所に拠点をつくるのが良い。
- ・ 施設が分散しているので、一定のエリアにまとめても良いと思う。
- ・ 生活場面ごとの利便性を考えて、集約する機能と分散する機能を整理しては。
- ・ 公民館周辺と団地周辺のそれぞれに拠点ができると、相互の交流が減ってしまう。地域としての一体感という視点から考えると、2つの地区を結ぶ施設を中間につくるか、中心を1つにするのが良い。
- ・ 公民館周辺と団地周辺の両方に施設をつくることは財政的に難しいと思うので、各々の不便さの度合いが平等になるような施設配置を考えるのが良い。

<地域の活性化>

- ・ 地域に人を呼ぶために、大学や専門学校を誘致するなど起爆剤が必要。
- ・ 子育てサービスの強化などにより、働く女性と専業主婦の双方を支援できれば、住む人が増え、地域が活気づくのでは。

<効率性・利便性>

- ・ 対象世代ごとにスペースを設けるのではなく、時間帯で分けて共有すれば効率が良くなる。
- ・ バスの充実や駐車場の整備など、車の有無にかかわらず気軽に公共施設への行き来ができるようにすることが大切。それが、利便性の向上や活動の活性化につながる。
- ・ 施設を集約する場合、利便性が確保できるように交通サービスの充実とセットで検討すべきでは。

<重視すべき地域づくりの視点>

- ・ 公民館周辺と団地周辺の住民が、同じ地域で暮らしているという意識を持ち、地域の一体感を生むにはどうしたらいいかというのが、地域の大きな課題だと思う。

課題解決の諸方策

<多機能化・複合化>

- ・ 多機能化や複合化すれば、多世代交流が生まれる機会となるので、1つのスペースを複数の目的や対象者で使用することが良い。施設の効率的な利用にもなる。
- ・ 図書館に学習スペースを設けたり、公民館にカフェスペースを設けるなど、1つの施設に複数の機能を入れれば、活動の幅が広がり、利便性も高まる。
- ・ 施設統合などにより既存施設に空きができた場合は、そこに新たな機能を複合することを検討しては。

<民間活力>

- ・ 保育園統合などで生まれた跡地は売却し、そこに民間活力を使いながら地域のためになる施設ができると良い。
- ・ 地域内の農家との連携により、市場の開設や農業体験などを行い、農業と自然を生かした地域づくりを進め、地域活性化につなげたい。
- ・ 病院やスーパーなどは、生活圏に必要な施設やサービスだが、行政だけでは整備が難しいので、施設整備と運営の両面で積極的に民間活力を導入しては。
- ・ 求められるサービスすべてを公共施設で賄うのではなく、民間施設との連携を強化しては。

<拠点施設>

- ・ 限られた資金で複数施設をつくると中途半端になる恐れがあるので、1か所にしてグレードを上げることを考えては。
- ・ 多世代のニーズに応えられるよう、健康センター、図書館、避難所などの機能を複合しては。みんながそこへ行くようになれば、地域の一体感を生むことができるだろう。
- ・ 長期間、空き地のままで放ったからしにしないでほしい。現状を大きく変えることは抵抗があるので、現在の利便性を大きく損なわないことに配慮し、新たにつくる施設に何を複合するか考えてほしい。
- ・ 多機能化・複合化を視野に入れると、新たな運営形態を考える必要があるのでは。

<世代間交流>

- ・ 世代を超えて、高齢者や子どもが日常的に交わる機会を増やしたい。

<高齢者支援>

- ・ 高齢者の活動を継続、拡大することが健康維持につながるため、サロンの設置などの支援ができると良い。
- ・ デイサービスを利用していない高齢者のための入浴施設が東曾野木周辺にはなく、曾野木荘は継続利用している人が多いので、東曾野木にも、介助付きで入れる入浴施設が必要。

<子育て支援・子育て世代支援>

- ・ 子どもを気軽に遊ばせ、預けることができる施設や、地縁に縛られない緩やかなコミュニティがあれば、子育て世代が新たに引っ越してくるのでは。
- ・ 保育園が統合した場合、地元の子どもが優先的に入れるような配慮や、施設規模が大きければ感染症が拡大しやすくなることへの対策を考えてほしい。
- ・ 放課後の小学生の行き場がなくなっているため、消防跡地などを活用して、子どもの遊び場があると良い。
- ・ ひまわりクラブは狭く、スペースが足りないため、学校の空き教室などを使って、できるだけ学校や自宅に近い場所に遊び場があると良い。
- ・ 中高生が溜まって話ができる場や、静かに勉強できるスペースが地域内に必要。
- ・ 30～40代が、個人や家族で使える公園、スポーツ施設などが地域内にあると良い。施設だけでなく、イベントやサービスを充実させるなどの工夫も必要。

<安心・安全・健康>

- ・ 備蓄品を備えた避難所が分散配置され、水害時に避難できる高層の避難所があれば、災害の不安が軽減される。
- ・ 健康センターのように、検診や健康指導を受けられる場所が必要。

<住宅整備>

- ・ 若い世帯や子育て世帯を増やすためには、住宅を供給する必要がある。農地の宅地化も考えては。

<使い方・運営>

- ・ 公共施設は利用のルールが多く、申請手続きも面倒。規制を緩めれば利用率が上がって利用料も増え、交流が生まれるきっかけにもなるのでは。
- ・ 施設が遠くなるなどの不便さは、支えあいで解決できる部分があるのでは。
- ・ 建物だけをつくっても利用率は上がらない。場を利用する人や団体をつなぐ仕組みや、イベントの企画力が欠けていることが問題。コーディネーターとなる人材の育成や設置が課題。

<公共交通サービス>

- ・ 施設を集約しても分散しても、各施設間や公民館周辺と団地周辺を結ぶコミュニティバスが不可欠。民間や住民主導での実現も考えたい。
- ・ 十分な駐車場の確保を。
- ・ 徒歩での移動が安心してできるよう、公民館と団地との間に遊歩道を整備してほしい。

第3回ワークショップでは、これまでの議論をふまえ、事務局が作成した対策案のたたき台をもとに、議論が行われます。

ワークショップのほか、広報紙やパネル展示などで情報提供を行いますので、ご覧いただき、みなさまのご意見をお寄せください！

